

## 5 駐車場の芝生化のポイント

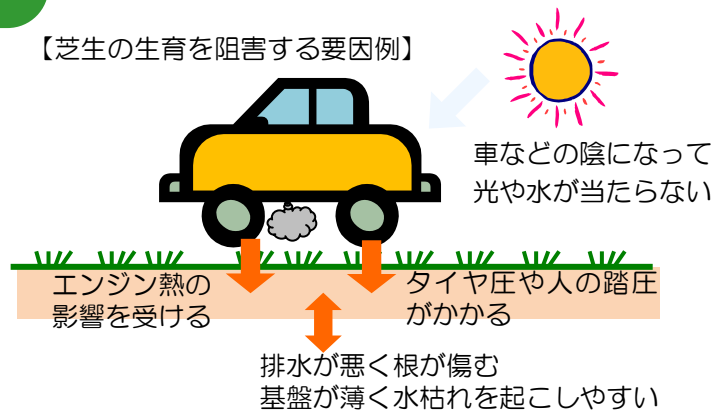
### 芝生の生育と環境

芝生が健全に生育するためには光、水、土の環境を整えることが大切です。

特に日照時間は大切で、**一日 5 時間以上の日照**を確保するようにしましょう。

また、タイヤ圧やエンジン熱の影響を受けにくくすることも必要です。

【芝生の生育を阻害する要因例】



### 工法の種類と特色

#### ○コンクリートブロック補強型



利用が普通程度からやや多い駐車場向け

#### ○車輪部補強型



利用が少な目から普通程度の駐車場向け

#### ○プラスチックマット補強型



利用が少ない駐車場向け

### 施工する際の注意点

- 施工後には、**十分な水やり**を行います。施工後の養生は最低 **1 ヶ月**を確保します。
- 張り芝の植栽適期は **3～5 月、9 月中旬から 10 月上旬**です。
- タイヤ圧や踏圧による土壌の締め固まりをやわらげる専用土壌もあります。
- 駐車場の入口部分や切り返し部分など過度のタイヤ圧を受ける箇所は、芝生や基盤が傷みやすいので、あえて芝生化しないか、**強度の高い補強材を使用**することを検討しましょう。
- 水はけが悪い箇所では、路盤碎石の厚さを十分にとり、排水用のパイプを敷設するなど、十分な排水対策が必要です。
- 補強材による地面の凹凸は、車いす使用者や高齢者などにとって障害となる場合があります。車いす使用者用駐車区画や通路などの確保が必要な部分は、あえて芝生化せずに使用者が安全に利用できる仕上げ面とすることを検討しましょう。
- 各工程において**転圧工事を十分に行う**ことで、施工後のタイヤ圧による不陸発生や芝生の定着不良などを抑制することができます。

### 維持管理のポイント

#### ■刈込み

○芝生が伸びてきたら、適宜刈込みを行います。

➡ **2～4cm**（仕上がり高）を目安に刈込みます。

➡ 刈込みは**ほふく茎の発生を促進**し、蒸散量を制限するため**水やりが軽減**できます。

※芝生が伸びると根元に光が当たらなくなり、ほふく茎が発生しにくくなります。

○芝生は刈込み回数を増せば増すほど**密度が高くなり、美しく、良い芝生**になります。生育旺盛な時期には特に刈込み回数を増やします。

➡ 刈込みを十分に行えば、**雑草の生育も抑えられる**とともに、雑草が生えていても見栄えが悪くなりません。



成長点を刈り込まない様注意。芝生の成長点は根元近くにあります。

- 刈込みした葉は除去します。(通気性、透水性、景観性の確保)
- 乗降時や歩行の支障にならないように、平坦性を確保します。

## ■水やり

- 夏季の水やりは芝生の状態及び環境条件、整備条件に応じて適切に行います。
- 夏季以外の水やりは、気候条件と芝生の状態により、必要に応じて行います。
- コンクリートブロックやプラスチックマットなどの補強材を使用した薄層の土壌では水切れが起こりやすくなるので注意が必要です。
- 駐車時間が長い駐車場では、車で降雨が遮られ水不足となります。

➡ 水やりの間隔は、**1週間を目安**に降雨や灌水量、土壌特性、品種に応じて総合的に判断します。

➡ 暖地型芝生は**5~9月頃**まで水やりが必要になります。

※施工や補修をした後の1ヵ月は毎日の水やりが必要です。

県内の事例では機械式の灌水装置を設置した駐車場の芝生は生育良好でした。



スプリンクラーを使用する場合は利用者や車両に水がかからないように配慮します。

## ■除草

- 刈込みを十分行うことで雑草の生育を抑えることができます。
- 特に大型雑草(多年草)は芝生を衰退させるので注意して除去しましょう。



雑草が繁茂した事例

## ■施肥

- 施肥は必要に応じて適宜行います。肥料の成分や施用量、施用方法は、目的に応じて決定します。肥料はホームセンターなどでも購入できます。
- 暖地型芝生の場合、春の萌芽期、梅雨前の伸長旺盛期、及び9月の貯蔵養分蓄積期に十分与え、使用頻度が高く、傷んだ箇所には追加でその都度施用します。
- 寒地型洋芝の場合、秋期に耐寒性向上のため有機肥料、緩効性化成肥料及び早春時期に化成肥料を施用します。
- ➡ **芝生専用の緩効性化成肥料**を推奨しますが、普通化成肥料(8-8-8)の場合は1㎡に対して20~40gを目安とし与えます。
- 傷んでいる部分には薄めた液肥を数回与え、施肥後はたっぷり散水しましょう。

## ■目土

- 芝生の更新を促すために目土を行うことが望ましいです。
- ➡ **芝生萌芽後の4~9月の間**に4~10mmの厚みで川砂または市販の目土用土壌を敷き込みます。
- 表面に凹凸ができたなら速やかに土を入れて均します。

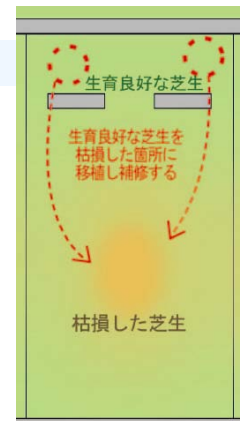
## ■補修

○大きな枯損部分があり、補修が必要な時には、枯損要因を考慮したうえで、張り芝・苗の移植などによって補修を行います。

➡ 補修は時期に関係なく、**その都度**行います。

○目土をかけると周囲の芝生の茎が伸びて元の状態に戻ります。

○車のタイヤ圧等を受けにくい車止めの後ろや周辺に同種の芝生を張っておくと、その部分から健全な芝生を切り取り、補修に用いることができます。



## ■その他運営など

○毎日同じ場所に止めないなどの利用制限が有効です。

➡ **曜日ごとに駐車区画を変える**などの駐車制限が有効です。

○駐車向きを統一（前向き、後ろ向き駐車）を図ることは、エンジン熱対策を行った場合には有効な手法です。

○ドライバーへのアイドリングストップの呼びかけが大切です。



アイドリングストップを呼びかける看板

## 管理スケジュール例

植栽場所の環境や品種によってスケジュールは変わります。

